



- P1 ■みんなで取り組む共助SDGs
- P2 ■「渋沢栄一翁と論語の里」ボランティアの会
■永年表彰
- P3 ■市町村コミュニティ協議会の取組
- P4 ■会員紹介

みんなで取り組む共助SDGs

～共助SDGsコバトン記者団の活動紹介～

埼玉県では、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる「日本一暮らしやすい埼玉」を実現するため、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、企業やNPO等の多様な主体と連携した地域に根差す「共助SDGs」に取り組んでいます。

今回は、県内の子供・若者が記者となり、SDGsの取組や地域活動取材し、発信する「共助SDGsコバトン記者団」の昨年度の活動を御紹介します。



埼玉県マスコット「コバトン」

地域における防災訓練

災害救援活動などを行う「NPO法人NPO埼玉ネット」が主催した防災訓練に、「損害保険ジャパン株式会社」と「ネットヨタ東埼玉株式会社」の社員の皆様が参加し、一緒に訓練を行いました。

共助SDGsコバトン記者団は、防災訓練当日の受付準備から炊き出しまで参加し、NPOや企業に対しそれぞれ疑問に思ったことを取材しました。体験活動と取材を通じて、SDGsにおける「パートナーシップ」の志を持って取り組むことの大切さやその重要性を感じられた活動となりました。



防災訓練集合写真



防災訓練取材の様子

カヌーで綾瀬川の清掃活動

草加市を流れる綾瀬川で、カヌーに乗って川をきれいにする活動を行う「NPO法人草加市カヌー協会草加パドラーズ」の皆様を取材しました。

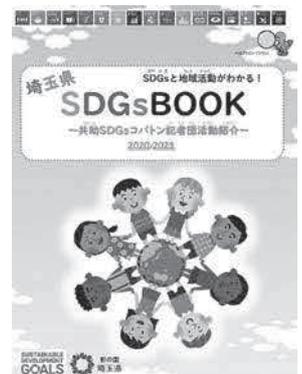
取材当日は、共助SDGsコバトン記者団もカヌーの操作訓練を受け、綾瀬川の史跡や歴史について学びながら草加市カヌー協会の皆様と一緒に清掃活動を行いました。清掃活動終了後は、綾瀬川の清掃活動や団体の活動について取材し、カヌーに乗って清掃するという実体験を通して、地域の川を守る活動の意義に触れました。

なお、令和2年度の共助SDGsコバトン記者団の活動をまとめた「SDGsと地域活動がわかる！埼玉県SDGs BOOK～共助SDGsコバトン記者団活動紹介～2020-2021」を埼玉県共助のポータルサイト「埼玉共助スタイル」に掲載しています。SDGsや地域活動について学習できる内容になっていますので、ぜひ市民活動や学びの場で広く御活用ください。

また、今年度の共助SDGsコバトン記者団の活動も随時ホームページ等で情報発信していきますので、ぜひチェックしてみてください。



カヌー清掃集合写真



◀「埼玉県SDGsBOOK」ホームページQRコード



共助 SDGs コバトン記者団

検索





特集 埼玉県を代表する偉人渋沢栄一翁に関するボランティア活動

「渋沢栄一翁と論語の里」ボランティアの会

渋沢栄一は、現在の深谷市に生まれました。栄一は、従兄の尾高惇忠に論語をはじめとする学問を習いました。旧渋沢邸「中の家」から尾高惇忠生家の周辺には、栄一に関連する史跡が多く残されており、一帯は「論語の里」と呼ばれています。

今回の特集は、論語の里の魅力を伝える団体について御紹介します。



コバトン

私たちの活動は、2014年6月に始まりました。世界遺産に登録された富岡製糸場の初代場長であった尾高惇忠の生家が公開され、そのガイドを行うためでした。

現在会員は39人です。会員には、様々な仕事を経験してきた方たちが居り、その個性を生かし、「ここに来てよかった」と言ってもらえるガイドを目指して活動しています。

当会は、渋沢栄一記念館のご指導・支援をいただきながら協働して、渋沢栄一の故郷・論語の里の魅力を、知っていただくべく活動をしています。

- ①尾高惇忠生家のガイド(惇忠の人となりを中心にご案内をしています)
- ②論語の里まち歩きツアー(論語の里の主な史跡を歩いて巡り案内します)
- ③論語教室(惇忠・栄一に大きな影響を与えた論語を学びます) などです。

今年は、渋沢栄一が主人公のNHKの大河ドラマ「青天を衝け」が放送され、栄一の従兄であり学問の師である尾高惇忠生家へも、多くの来場者があります。ドラマと関連付けながら、より理解していただこうと解説に努めています。

一方、コロナ禍で、たびたび緊急事態宣言が発令され、ガイド業務が休止となるなど苦慮しています。そうした中、一方通行方式・中庭での定時短時間解説(10分程度)に努めるなど工夫をした受入れをしています。

皆様も、コロナが収束しましたら是非お越し下さい。私たちがご案内します。



論語教室(令和元年7月の様子)



尾高惇忠生家中庭での解説



論語の里まち歩きツアー(旧渋沢邸「中の家」)



ボランティアの会の方に論語の里を案内してもらいました

ボランティアの方々の分かりやすい説明と、様々な質問に答えられる知識の量に驚きました。栄一らにまつわるエピソードや地元深谷市に関する豆知識など、ボランティアの会の方々に案内してもらえたからこそ知れたことがありました。栄一の考え方は現在にも活かすことができ、もっと色々なことを学びたいという気持ちが芽生えました。

ボランティアの会のみなさんは、個人で学んだことを共有したり、栄一たち渋沢一族の御子孫からお話を聞く機会を設けるなどして、ガイドのための知識を深めているそうです。

渋沢栄一翁と論語の里等については、「渋沢栄一デジタルミュージアム」で詳しく紹介されています。この機会に是非ご覧ください。



◀渋沢栄一デジタルミュージアムQRコード

永年表彰 ～彩の国コミュニティ協議会事業報告～

魅力ある地域のコミュニティづくりのため、コミュニティ協議会役員として20年以上にわたり貢献をされてきた方々に対し、表彰を行っています。今年度は7名の方が受賞されました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため表彰式を中止し、受賞者には郵送等で表彰状及び副賞をお渡しさせていただきました。

【受賞者一覧】

- | | |
|---------|--------------------|
| 荻島 正弘 氏 | (川口市コミュニティ協議会) |
| 平岡 仁 氏 | (川口市コミュニティ協議会) |
| 新井 雅夫 氏 | (川口市コミュニティ協議会) |
| 山崎 正治 氏 | (和光市コミュニティ協議会) |
| 山口 豊 氏 | (越生町コミュニティ協議会) |
| 松永カツ子 氏 | (久喜市鷲宮コミュニティ推進協議会) |
| 高橋 仁 氏 | (上里町コミュニティ協議会) |

市町村コミュニティ協議会の取組

彩の国コミュニティ協議会では、市町村協議会が行う共助社会づくり事業に対して助成をしています。今年度の助成事業について、一部御紹介します。

オンライン春日部藤まつり2021(春日部市コミュニティ推進協議会)

春日部市コミュニティ推進協議会では、市内の43団体が連携・協力して、コミュニティの輪を広げる様々な事業を行っています。

事業の中でも、毎年4月下旬に開催している春日部藤まつりは、約1.1km藤棚が続く「ふじ通り」を会場に、約19万人が来場する市の春の風物詩になっています。

令和2年度と今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としましたが、今年度は、オンライン春日部藤まつり2021を専用ホームページで4月末から年度末まで開催しています。7月末には閲覧回数が、3万回を超えました。

オンライン春日部藤まつりをたくさんの方にご覧いただき、コミュニティ活動の活性化に寄与していきたいと考えております。昭和・平成の藤まつり思い出写真や参加団体60団体による活動やメッセージの動画など、今まで参加できなかった方にも、楽しんでいただける内容となっていますので、ぜひご覧ください。



ホームページ
QRコード

花いっぱい運動(美里町コミュニティ協議会)

美里町コミュニティ協議会は、美しいまちづくりを推進する活動を行う団体に対し、花の苗を配布することにより町内の環境美化活動からコミュニティの輪を広げる運動をしています。

令和2年度の秋には18回目の「花いっぱい運動」を開催しました。28団体の参加でパンジー、ピオラ、シレネ等5,700株以上の花で町内を彩ることができました。

新型コロナウイルス感染症の影響もありマスク着用や、人と人の距離をとるなど感染リスクを抑える予防措置を実施した上で、各団体ごとの植栽活動を行いました。

コロナ禍で地域とのつながりが薄れてしまっていると感じる中、今回の活動を通し地域住民の環境美化活動への意識啓発や、地域のつながりを深める活動となりコミュニティ形成の一助になったのではないかと考えています。

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見通せない中ですが、今後も地域コミュニティの活性化につながる活動を続けてまいりたいと思います。



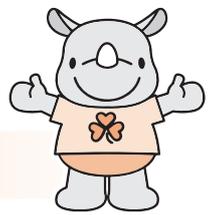
黒目川堤防清掃活動(朝霞市コミュニティ協議会)

朝霞市コミュニティ協議会は、コミュニティ活動を通して、心の触れ合う人間性豊かな住みよい地域社会の創造を目指すことを目的として昭和57年に設立され、令和4年2月で創立40周年を迎えます。

助成事業として、毎年、お花見シーズン前に、コミ協加盟団体、市民、事業所等と行政が協力し、交流を図りながら、黒目川の堤防清掃活動を実施しています。残念ながら令和元年度、2年度と2年続けて、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、平成31年3月に実施した際には、908人の参加があり、420kgのごみの回収を行いました。

黒目川の自然環境を守り、市内各団体の交流を図るために、今年度は実施できるよう、感染症対策を含めた準備を進めてまいります。





国際興業(株)

国際興業は、大宮、浦和、川口、戸田などの埼玉県南部と池袋、赤羽などの都内北部で約900台の車両を運行する路線バスを柱に、高速バス、観光バス、ハイヤーという公共性の高い運輸交通事業と、ホテル・レジャー事業、流通・商事事業、不動産開発事業を展開しています。

猛威を振るう新型コロナウイルスが地域経済に甚大な影響を与える中、バス事業は感染予防対策として車窓を開放しての運行や換気システムの使用に加え、全ての車両に光触媒スプレーによる抗菌・抗ウイルス加工を施し、お客様に安心してご利用いただけるよう日々安全運行に努めております。

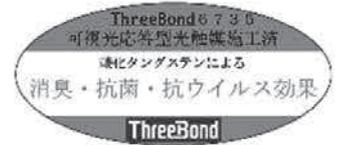
また、県や市町村が実施するワクチン集団接種会場への輸送を積極的に担い、地域の皆様の生活にお役に立てるよう取り組んでおります。



観光バス



路線バス



全車両に抗菌・抗ウイルス加工を実施

(公財)埼玉県スポーツ協会

埼玉県スポーツ協会は、まず参加のしくスポーツ みんなが主役、をキャッチフレーズに①生涯スポーツ社会の実現、②世界に羽ばたく彩の国アスリートの育成、③次代を担う青少年の健全育成を3本軸に、埼玉県におけるスポーツの振興事業を展開しています。

中でも、スポーツを通じて豊かな地域コミュニティづくりを目指す総合型地域スポーツクラブの育成や、スポーツ科学の知見に基づく将来有望なアスリートの発掘・育成・強化支援を行う「彩の国アスリート育成プロジェクト」の推進、日本一の規模を誇る本県スポーツ少年団の統括業務など、本県スポーツの一翼を担っています。

令和7年2月26日には、創立100年を迎えます。これを契機に116の加盟団体との連携・協力をより一層深め、本県スポーツのさらなる魅力の向上、県民の健康づくりに寄与できるよう努めて参ります。



▲年4回発行の広報誌「スポーツ埼玉」は、県内公共施設等へ毎月配布

埼玉県スポーツ協会
ウェブサイトQRコード▶



埼玉県図書館協会

埼玉県図書館協会は、加盟している県内の公共図書館や学校図書館、大学図書館と連携して、図書館事業の推進や読書活動の充実を図るため、様々な事業を実施しています。

事業の中心は図書館職員を対象とする研修で、経験年数や担当業務に応じた様々な研修を行っています。

また、毎年12月に「図書館と県民のつどい埼玉」を開催し、幅広い年代の方々の参加による交流を通じて、県民の皆様に図書館をもっと知っていただき、よりよい図書館サービスを考える契機となるように努めています。

令和3年度については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンライン開催により実施します。作家 伊吹有喜さんの記念講演や絵本作家 鈴木まもるさんの講演会、司書が語るLiveイベント、司書が魅せるWeb展示、中学生のビブリオバトル、オリジナルトートバックのプレゼントなど様々なイベントを行います。どなたでも参加いただけますので、ぜひお気軽に御参加ください。

